

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 勝山市立北郷小学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
所在地 〒 911-0054
福井県勝山市北郷町東野 13-25
E-mail kitagousyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp
Website http://kitagou-es.mitelog.jp/
幼児児童生徒数 男子 45 名 女子 41 名 合計 86 名
幼児・児童・生徒の年齢 6歳～12歳

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度 + 活動内容を表す写真数枚)

当校は、「自立の『ねっこ』を育てる」を教育目標として、ESD の実践を通して自分たちの手で自分たちの学びをつくる子を育成することを目標とした。

具体的には、「地域の良い場所や環境に自分たちが気づくこと、調べること」と「故郷の魅力を発信すること」の 2 つを柱に、①地域に係わる活動、②福祉に係わる教育、③環境に係わる学習、④将来の夢に係わる学習を行った。

① 地域に係わる活動

3 年生は、「勝山のおたからさがし」というテーマで総合的な学習を進めた。その 1 つに、地元の方々と密接に連携した活動として「アユの体験学習」を行った。地元漁協の支援をうけた稚魚の放流・釣り体験、ふ化体験に始まり、鮎の生態調査を行った。冬季には、鮎の巻き寿司を作ったり、市の伝統催事である「勝山歳の市」での販売を行ったりした。

② 福祉に係わる教育

4 年生は、「福祉について考えよう」というテーマで総合的な学習を進めた。人と人との関わりを重視し、地域の高齢者団体や福祉施設と連携しながら人を介した福祉交流を通して共生社会に向けた意欲付けを行った。国語科とも関連付けながら学習を進めた。

③ 環境に係わる教育

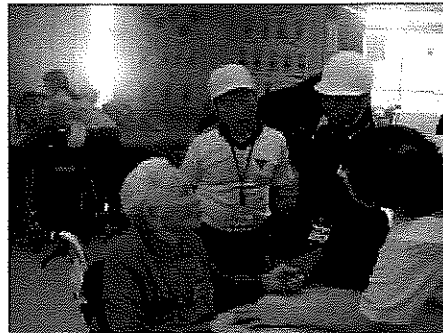
5年生は、「北郷町の魅力を探そう」をテーマの1つとして総合的な学習を進めた。校区内には、県の準絶滅危惧種に指定されているバイカモが自生している。しかし、近年、ゴミやオオカナダモ（外来種）などにより自生が危ぶまれてきた。そこで、地域の環境保全に取り組んだ。

④ 将来の夢に係わる教育

6年生は、「住環境を通して、北郷町の魅力を発見しよう」をテーマの1つとして総合的な学習を進めた。ふるさとにあった住環境を考えることを通して、地域の魅力を再確認したり、将来の自分の家族構成や生き方について考えたりした。5年生までの生活科や家庭科、総合的な学習の時間の学習も生かした内容になっている。



① 鮎の巻き寿司販売に参加している様子。



② 鷺巣苑（老人保健施設）を訪問し、交流している様子。



③ 水質調査の様子。



④ 外部講師に相談しながら家の設計をしている様子。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

| | | | |
|--|---|---|-----------------------------------|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境 | <input type="checkbox"/> 2. エネルギー | <input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災 | <input type="checkbox"/> 4. 生物多様性 |
| <input type="checkbox"/> 5. 気候変動 | <input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性 | <input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産 | <input type="checkbox"/> 8. 人権・平和 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉 | <input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育 | <input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費 | <input type="checkbox"/> 12. 貧困 |
| <input type="checkbox"/> 13. エコパーク | <input checked="" type="checkbox"/> 14. ジオパーク | <input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED) | |
| <input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等 | <input type="checkbox"/> 17. その他() | | |

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

| | |
|---|--|
| <input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力 | <input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度 | <input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度 | |
| <input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入) | |

ウ. 活動時間（複数選択可）

| | |
|--|--|
| <input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間 | <input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間 |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等 | <input type="checkbox"/> 4. クラブ活動 |
| <input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述) | |

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

・RUN 伴公式サイト： <http://runtomo.org/>
 ・新訂 水生生物ハンドブック（文一総合出版）

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

全学年で ESD カレンダーを作成し、生活科と総合的な学習の時間を中心に、各教科における、「福祉・人権」「環境」「地域共生」「将来の夢」に関連する単元を整理している。カレンダーにすることで縦や横のつながりを意識しやすくなり、ESD の視点を取り入れた学習となるように工夫している。また、教科指導だけでなく、学校行事や特別活動とも連携させ、学校全体で取り組んでいけるようにしている。
 発信する機会として、11月に学習発表会を設定し、他学年の児童や保護者や地域の方に発信している。発表形態もポスターセッションや劇などさまざまに工夫することができる。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

ESD カレンダーや総合的な学習の時間の年間計画を利用している。外部人材も積極的に活用している。外部の人材や団体と継続してつながりをもつことで、学校だけでなく、ESD 推進のためのノウハウを外部人材や団体にも蓄積している。また、授業に使用した教材などは学校のサーバーで管理し、いつでも利用できるようになっている。
 以上の取り組みによって教職員に異動があっても、前年までの取り組みの様子が把握でき、継続性・発展性のある活動が実践できている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

外部評価として、児童・保護者対象の学校評価を年2回行っている。また、家庭・地域・学校協議会を年2回開催している。PTA 役員、地域コーディネーター、学識経験者、公民館長などが参加し、学校評価などをもとに意見をいただいている。

内部評価としては、年度末に教職員学校評価を行っている。その中に、ESDに関する項目も入れ、反省点を次年度に引き継いでいる。

ESDカレンダーの見直しを毎年行い、改善に努めている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（200字程度）

学校行事では、11月に学習発表会を設定し、発信する機会としている。劇やプレゼンテーションソフトを利用したステージ発表や教室でのワークショップ形式など発表形態も様々である。学校便り（保護者対象：週1回、地域対象：月1回）や学級便り（週1～2回）を発行し、子供たちの様子を素早く発信することを心がけている。他にも、チラシを作成し校区内の全戸に配布したり、新聞などのマスコミに取材を依頼したりしている。

保護者や地域の方の学校の取り組みに対する理解も進み、地域の方から情報や助言、協力をいただくことも多くなった。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）（200字程度）

3年生 九頭竜川中部漁業組合…鮎のふ化体験
内水面センター…鮎の生態について
北郷地区町づくり協議会…鮎の巻き寿司体験
鮎を嗜む会…巻き寿司販売
4年生 愛の家（認知症介護対応老人ホーム）…認知症について
社会福祉協議会…アイマスク体験、車いす体験など
5年生 勝山市・生活環境グループ…バイクモ保全活動
奥越土木事務所…防災教室
消費者センター…消費者教育
県女性活躍推進課…男女共同参画社会について
6年生 永森建設株式会社（住環境学習）
勝山市市役所（バイクモ保全活動・ジオパーク学習）

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）

勝山市内の12校のESD担当者が年2回会議を持ち、情報交換をしている。良かった点や反省点、課題を共有し、次年度に生かしている。また、3年に一度、ESD担当者がユネスコスクール全国大会に参加したり、毎年1名北信越ユネスコスクール交流会に参加したりしている。そこで得た情報を報告し、自校の実践に生かしている。参加が難しかった場合、市のESD担当者会で、参加者からの報告が受けられるようになっているので、常に最新の情報に触れることができている。

ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

【児童】

- ・勝山のいいところを尋ねると答えられるようになった。これまで無関心だったことにも興味を持ち始めた。
- ・郷土愛が育ってきている。
- ・地域の行事に積極的に参加するようになった。
- ・虫や生き物、ドロなどを素手で触れるようになった。
- ・学年ごとにテーマや課題がある程度決まっていると、次の学年に向けて「来年は自分たちの番だ！」という気持ちを受け継ぐようになっている。それが学校の伝統にもなってきている。
- ・地域の方々とのコミュニケーションが深まってきた。子どもたちのあいさつが良くなったと地域の方に褒められた。

【教員】

- ・自分の勤務する地域について知ることができた。教員が地域へ積極的に出ていくようになった。
- ・ESDに対する認識が深まった。ESDを特別視する先生が減ってきた。
- ・継続することが大切だという認識が深まった。
- ・各学年でプログラムがある程度決まっているので、年数が進むにつれ教員のスキルアップにつながっている。昨年のことを受けて、今年はどうしよう、という方向性が出てきた。
- ・関係機関とのつながりができ、深くなってきた。外部機関や専門家に協力依頼しやすくなった。
- ・地域とのつながりが増えた。地域の人と協働する機会が増えた。

【カリキュラム・授業方法の変化】

- ・児童生徒に課題を見つけさせる授業展開を考えるようになった。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

「自立の『ねっこ』を育てる」を教育目標として、ESDの実践を通して自分たちの手で自分たちの学びをつくる子を育成することを目標として取り組んでいく。

生活科と総合的な学習の時間を中心に、「地域の良い場所や環境に自分たちが気づくこと、調べること」と「故郷の魅力を発信すること」の2つを柱に①地域に係わる活動、②福祉に係わる教育、③環境に係わる学習、④将来の夢に係わる学習を行っていく。

今年度までの4年間は英語教育強化拠点事業の指定を受け、総合的な学習の時間が全学年で年間35時間となっていたが、平成30年度からは70時間になることが決まっている。時数的な余裕も生まれるため、今年度できなかったことにも取り組めるようになる予定である。新たなテーマに取り組むのではなく、これまで続けてきたものを発展させていく視点を大切にしたい。